

ユダヤ民族に襲いかかる独裁者についての二つの預言

ダニエル書 8 章後半

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



皆さま、こんばんは。先日、東京の方で講演があって、主催者が封筒で謝礼を渡してくださったんですが、行書で「謝礼」の「礼」が平仮名の「れ」に見えたんです。「謝れ」と。「なんで？…あ、謝礼や」と。疲れると、そういう錯覚を起こすものです。皆さんもお仕事帰りでお疲れと思いますが、それでも来ていただいて感謝しています。

さて昨日、日本時間では水曜日ですが、アメリカではスーパーチューズデー。次のアメリカ大統領候補を誰にするか、民主党も共和党も大きな選挙がありました。特に共和党では、14 勝 1 敗でトランプ氏ですよ。“もし虎” どころの話じゃないんです。“もし虎” というのは、“もしトランプが大統領に返り咲いたら” という。“ほぼ虎” です。次の大統領は、ほぼトランプじゃないか。

トランプが大統領になったらどうなるか。全部変わります。移民問題を徹底的にやる。どんどん入って来ている不法移民を物理的に追い返す。貿易では、中国に対して関税 60% 掛ける。アメリカに倣って中国にプレッシャーを掛けない自由主義同盟の国々は、アメリカの味方とはみなさない。自由主義経済だから、どんな仕事をしようが勝手じゃないですか。でも、中国を追い詰めるにはアメリカ一国だけではダメで、日本にも当然協力してもらおう。そして、ウクライナへの軍事支援をほぼ切るみたいなことまで匂わしていますよね。今までの 4 年間のバイデン時代、生ぬるい時代じゃない。

トランプ大統領 1 期目の時は、安倍晋三という切り札がいたんです。だから、トランプが大統領に当選するや否や、あのニューヨークのトランプタワーにバーン行って、直談判して。はっきり言って、トランプに外交指南したのは安倍晋三でしょ。僕は自民党の方から（名前は言えないけど）、その時何を話したのか聞いたことがあるんです。確認しようがないですが。

その時かどうか分からないけど、安倍さんが日露戦争の話をした時、トランプ大統領はビックリして、「日本はロシアと戦争したことがあるんか。」「もちろんです。」「どっち勝ってん？」って大丈夫？ だけど、思い切ったことができますよね。しがらみがない。

トランプ大統領を支持している岩盤層は、福音派と言われているクリスチャンたちです。実は私、福音派なんです。アメリカの福音派は反 LGBT、反中絶（墮胎）、親イスラエル。リベラルは、それを全部ひっくり返したものの。アメリカは権利の主張ということで、今までの常識がどんどん覆されて行っている。

その危機感を持っているんです。トランプ大統領は、「右も見て左も見て」というのではなく、しがらみ無しに思い切ったことができる。ということで、福音派のクリスチャンたちは彼を応援しているんですね。

福音派で、ユダヤ人で、アメリカ共和党に太いパイプを持って、今イスラエルに住んでいる有名な作家がいます。ジョエル・ローゼンバーグ。彼の作品は十数冊ありますが、全部ミリオンセラー。なのに、日本ではほとんど知られてない。日本語に翻訳されないから。翻訳されているのは1冊だけ。これ言うと中古本市場がバーン上がるから、自分の分を確保してから言わないと、手が届かなくなる。後で言います。いやらしいなあ。

彼のお父さんはロシアにいた代々正統派のユダヤ人ですが、ユダヤ教にあまり良いイメージがなく時代遅れだと。やがてアメリカに亡命して、異邦人の女性と結婚しました。2人ともクリスチャンではないけど、新約聖書を読んで、「新約聖書に登場するナザレのイエスは、我々ユダヤ民族が待望してきたメシアではないか！」と気がつくんです。そして、奥さんもクリスチャンになって、2人から出て来たのがジョエル・ローゼンバーグです。

ローゼンバーグははじめ、大統領のスピーチライターでした。これは非常に重要なんです。ウクライナのゼレンスキー大統領が色んな所で演説すると、ものすごい支援が集まるじゃないですか。ウクライナの歴史を踏まえて窮状を訴え、「我々を応援してください」と心を掴むような演説をするからです。あれは彼が考えてるんじゃない。スピーチライターがいるんですよ。それを覚えて語ってるんですね。

ローゼンバーグはスピーチライターでしたが、これでは埒が明かない。彼のライフワークは聖書預言の研究なんです。これから世界がどうなるのか伝えたいけど、研究書の形にしても一般の人たちは読まない。なので、一般人にアピールするために、近未来政治小説の形で物語にして訴えたんです。

処女作は2000年。そのあらすじは、イスラム原理主義者がアメリカの旅客機をハイジャックして、乗員乗客もろともペンタゴンに突っ込んで行く。そのテロの後、裏にイラクのサダム・フセインがいるのではと疑ったアメリカが、イラク戦争に突き進んで行く。

その本を書いている真っ最中、自宅の上空をペンタゴンに向かっている旅客機が通過した。そして数十分後、テロ、アタック攻撃をやった。彼も驚きました。書いた内容が、そのまま実現したんだから。すぐにそれが出版され、大センセーションを起こしたんです。それから6~7冊シリーズで書きますが、すべての内容が当たらずとも遠からず。書いてあることが大体、次から次へと実現するので、付いたあだ名が“ノストラダムス”。

彼が書いたことが、なぜそんなに実現するのか。

2000年というのを考えてみてください。24年前。中には生まれてない人もいます。1991年12月25日、ソ連が崩壊しました。米ソ冷戦でアメリカがソ連をぶち倒し、国際共産主義運動の総本山が倒れて、もうアメリカに立ち向かってくる国はない！それで、フランシス・フクヤマという人が現れて、『歴史の終わり？』という本を書きました。「人類歴史というのは、経済では自由経済、政治では自由民主主義が最終完成形で、これ以上の歴史はない。もうこれで終わる。安定するんだ。」

こんな気楽なことを言った哲学者に対し、聖書預言を知っていたローゼンバーグは「そんなに甘くないぞ。人類歴史は良い方向に向かっているんじゃない。終末預言の実現に向かって進んでいる。アメリカは必ず中東問題に巻き込まれて、酷い体力消耗を起こすだろう。」

彼は聖書預言の観点で小説を書きますが、書くにあたって取材をします。だれに取材するか。彼の親友が2人、トランプ政権の中枢に入っていました。ペンス副大統領とポンペオ国務長官です。ポンペオさんは元CIAですよ。政治、特に共和党の人脈と深く結びついているだけでなく、政治家・軍人・情報当局者（CIA・FBI・NSA・DIAなど）に取材してインサイダー情報をもらう。だから、非常に確度の高い歴史小説・近未来小説で、明らかにすることができてるんです。

私が日本の情報当局に取材に行っても、相手にされませんよ。私が聖書預言で話しているのは全部、オープンソースばかり。新聞に出ている情報を話してるんです。私だけが知っている極秘情報なんかありません。機関投資家のバフェットは、「裏情報を追いかけるのではなく、表に現れている情報を深く読め。これが株の鉄則である。」ああ、そうですかと。

でも、ローゼンバーグにはそんなパイプがある。彼らはなぜ、ローゼンバーグに教えるんですか。実は、アメリカの政治家・軍人・情報当局者の中に一定数、聖書預言に一目置いている人たちがいるんです。

「聖書は宗教の本だ。キリスト教の経典だ。右のほっぺた叩かれたら左出せみたいな、実行不可能なことを教えている本だ。」そんなレベルの理解ではない。

「聖書に書かれている預言は、今まで全部成就してきた。なので、これからのことを語っている預言も必ず実現する」と信用している人たちが、アメリカの上層に一定数いるんですね。だから、彼が会いたいと言ったら会うし、質問したら答えるんです。日本では中々。そんな中、皆さんは来てくださって感謝しています。

ダニエル書8章は、既の実現した預言と、これから実現する預言の両方が書いてあるんです。8章全体は長いので、今回は8章の後半部分です。特に終末預言。人類歴史の最後に人類はどうなって行くのか。これは、新約聖書の黙示録と旧約聖書のダニエル書に、非常に詳しく書いてあるんですね。

では、前回やった前半部分を簡単にお話しします。

ダニエルは BC551 年にダニエル書 8 章を書きました。

ダニエル書 8 章

1 ベルシャツアル王の治世の第三年、初めに私に幻が現れた後、私ダニエルにもう一つの幻が現れた。

ベルシャツアル王の治世の第三年。これで BC551 年というのが分かります。

当時、バビロンがオリエント世界の覇権を握っていました。その王がベルシャツアルです。ダニエルは覇権国家バビロンの王に仕えていたんですね。

その覇権国家にしながら、ダニエルは「この国はいつまでも続かない。バビロンの後に覇権を握る国が出て来る。それは 2 本の角を持った羊のような国。その国を一突きで倒す一角獣みたいな山羊の国が出て来る。しかし、山羊の国は突然角が折れ、4 本の角が出て来て、そのうちの 1 本が非常に強くなる時代が来る。」

何を言っているか、全然分からないでしょ。

20 あなたが見た二本の角を持つ雄羊は、メディアとペルシアの王である。

バビロンの次に覇権を握るのはアケメネス朝ペルシアだ。これ実現しましたね。

なぜ羊なんですか。ペルシアの守護神は羊です。

日本神話では、ヤタガラスが日本を守ってくれたそうですが。

角が 2 本ある。メド・ペルシアは、メディアというデカイ国とペルシアの連合国家でスタートしますが、最初小さかったペルシアがメディアを呑み込みました。

21 毛深い雄やぎはギリシアの王であり、その額にある大きな角はその第一の王である。

ペルシアを滅ぼしたのは、アレクサンドロスのギリシアです。

星占いや天文学で、おやぎ座はギリシアを意味します。雄やぎはギリシアです。

大きな角／第一の王の時、ギリシアは小さな国から、ヨーロッパからインドに至るまで一気に押さえる国になりました。たった 10 年間で世界を制覇したのがアレクサンドロス。アラビア語ではイस्कンダル。英雄中の英雄です。

しかし、アレクサンドロスは 33 歳の時に熱病に罹り、ポキッと角が折れるように死んでしまいました。

死ぬ前に部下たちが枕元に集まり「後継者は誰に？」「最強の男に。」罪つくりや。みんな、自分が最強だと思っているから。このため 42 年にわたって、アレクサンドロスの大帝国は内輪揉めとなり、最終的に 4 つの国に分かれます。

その中で、一番デカくなった国がセレウコス朝シリア。

セレウコスはアレクサンドロスの部下の名前です。セレウコス将軍が造ったシリア。

22 その角（アレクサンドロス）が折れて、代わりに四本の角が生えたが、それは、その国から四つの国が起こるということである。しかし、第一の王のような勢力はない。

四本の角が生えた。アレクサンドロスの国から4つの国ができた。
といっても4等分ではなく、小さいのも中くらいのも、非常に大きい国もあった。
その大きい国がセレウコス朝シリア。ここまでが前回の復習です。

さて、4つの国の中で一番大きくなった国から、1人のとんでもない男が出て来る
んですね。この人物について、ダニエルはかなりのページ数を割いて、詳しく預言
しています。この男はムチャクチャな恐るべき王で、ユダヤ民族に大変な災いを下
すんですね。彼の名は**アンティオコス・エピファネス** (BC215頃-BC163)。
なぜこの人物を詳しく描くのか。やがて人類歴史の終わりに、世界を支配する反キ
リストが出て来ますが、そのモデルになる人物だからです。

9 その (4つの国) うちの一本の角から、もう一本の小さな角が生え出て、南と、 東と、麗しい国に向かって、非常に大きくなっていった。

そのうちの一本の角はセレウコス朝シリア。旧約聖書で角は国を表します。
セレウコス朝シリアから、もう一本の小さな角が生え出て。王とか小さな国が出て。
南と、東と、麗しい国に向かって、非常に大きくなっていった。
セレウコス朝シリアが大きくなったのは、アンティオコス・エピファネスの時です。

ダニエルがこれを書いているのはBC551年。まだバビロンが健在です。
でも、ここで預言で紹介しているのは、バビロンが倒れた後に出るペルシア、その
後に出るギリシア、その4分割された国の1つから出る人物のこと。
ダニエルがこれを書いてから380年以上後に実現することなんですね。

セレウコス朝シリアのアンティオコス王は26人出て来ますが、彼は4番目なので、
アンティオコス4世エピファネスです。
彼はBC175年に王位に就くと、まず南に行きました。南にあるのは4分割の1つ、
プトレマイオス朝エジプトで、最後の王様は女性。**クレオパトラ**です。
エジプトはアラブ人のイメージがありませんか。クレオパトラはギリシア人ですよ。

南と、東と、麗しい国に向かって、非常に大きくなっていった。
アンティオコス・エピファネスはエジプトまで行って、エジプトを滅亡させる寸前。
その時ローマから、「潰したら、わしが黙ってないぞ。帰れ！」ということで撤退
しますが、エジプトが支配していたユダヤ人地域をもぎ取ったんです。
麗しい国はユダヤ人の国。東はメソポタミア地方。

彼の時に非常に大きくなり、強くなりました。そうなると、どんな人でも傲慢にな
りますね。どんなに成功しても謙遜さを維持するというのは、人間には難しいこと
ではありませんか。
やることなすこと全部右肩上がり成功して行くと、段々人が言うことに耳を貸さ
なくなります。俺の判断が一番正しい。イケイケの組長みたいになる。
それをやったのがアンティオコス・エピファネス。

アンティオコス・エピファネスはギリシア人なので、ギリシア文明に非常に誇りを持っていました。

世界で一番美しい言葉はギリシア語。世界で一番深い思索はギリシア哲学。

人類史上最初に哲学を考えたのはギリシア人。ほかのところで哲学は出て来ない。なぜギリシアにだけ出て来たんですか。ヒマやったから。

仕事は全部奴隷にやらせる。だから時間がある。時間ないと哲学やってられません。

世界で最初に地球の円周測ったのはギリシア人。確か 39,700 キロ。

今の正確な計測では 40,070 キロなので、ほぼほぼドンピシャですよ。

アルキメデスの幾何学・比重・てこの原理など、数学も幾何学も地理学も天文学も文学も哲学も、ギリシアの文明はまさに人類歴史の華。それはだれもが認めること。

ギリシア人の彼はなおさらのことそう思っているので、こう考えたんです。

「ギリシア人以外の人間にとって一番幸せなのは、ギリシア人になることだ。

今までの習慣も考え方も全部捨てて、ギリシア人の神を拝み、ギリシア人の風習を取り入れ、ギリシア人のように生きること。それが人間として完成している姿だ。

セレウコス朝シリア領内では、すべての人が 1 つの民族、すなわちギリシア人のようになれ！ギリシアの神々を拝め！」

この命令にみんな喜んで従ったけど、従わなかった民族がいました。ユダヤ人です。実はこの時、大半のユダヤ人は従ったけど、創造主を信じているユダヤ人は拒絶したんですね。拒絶した時、「あ、そう。じゃあ滅亡。」ユダヤ民族を目の敵にした。

10 それは大きくなって天の軍勢（イスラエル）に達し、天の軍勢と星のいくつかを地に落として、これを踏みつけ、

聖書で天の軍勢は、一般的には天使の軍団を意味することが多いんです。

しかしここでは、アンティオコス・エピファネスが直接攻撃できる対象なので、天が所有している軍勢イスラエル。聖書には、イスラエルの部族長たちを星・太陽・月になぞらえている箇所があります。

彼はイスラエルを滅ぼそうとしました。エジプトから引き揚げて、そこからもぎ取ったイスラエルに入り、8万人のユダヤ人を殺して、4万人を捕囚し、4万人の女性と子供を奴隷として売り飛ばしたんです。

11a 軍（イスラエル）の長に並ぶほどになり、彼から常供のささげ物を取り上げた。

軍の長はユダヤ人が崇めている神。アブラハム、イサク、ヤコブの神。

神に並ぶほどになった。自分を神と等しいものとした。

アンティオコス・エピファネスは現人神（あらひとがみ）で、人間の姿をしているが、実は神が人間の姿で現れているという意味の名前。非常に高ぶったんですね。

彼から常供のささげ物を取り上げた。原文には、彼からはありません。

軍の長に並ぶほどになり、常供のささげ物を取り上げた。

ユダヤ人はエルサレムに神殿を持っていて、毎日朝と晩に動物を殺し、神にいけにえを献げました。これは、ユダヤ民族に義務付けられた神へのささげ物です。それを取り上げた。ユダヤ人の礼拝を中止させた。

11b こうして、その聖所（神殿）の墓はくつがえされた。

どうやって覆したのか。

①神殿には動物を屠る祭壇があります。その祭壇を下敷きにして、その上にギリシア式の祭壇を造り、その上で豚を献げたんです。

ユダヤ人にとって豚は汚れた動物ですよ。僕はトンカツ好きですが、ユダヤ人は豚を絶対食べない。触れることさえしない。その豚を神へのいけにえとして献げた。

②ギリシア人は12人の神々／オリンポス12神を拝んでいて、その最高神がゼウスです。ゼウスの偶像を、エルサレム神殿の聖所の一番奥にある至聖所に安置させた。

12 背きの行いにより、軍勢は常供のささげ物とともにその角に引き渡された。その角は真理を地に投げ捨て、事を行って成功した。

真理を地に投げ捨てた。ユダヤ人から旧約聖書を取り上げた。

旧約聖書を持っているだけで処刑です。旧約聖書を実行することは死刑。

割礼を行うことも死刑。安息日を守ることも死刑。

ユダヤ人の男の子は、生まれて8日目に性器の皮の先端を切ります。

これが割礼ですが、もし母親が割礼を許したら、母親の親・兄弟・一族全員死刑。

つまり、ユダヤ人絶滅計画を実行した王なんですね。

事を行って成功した。そのような王が大暴れして、だれもストップできなかった。

13 私は、一人の聖なる者が語っているのを聞いた。すると、もう一人の聖なる者が、その語っている者に言った。「常供のささげ物や、あの荒らす者の背き、そして聖所と軍勢が踏みにじられるという幻は、いつまでのことか。」

あまりにも横暴な出来事を天から天使たちが見ていて、天使と天使が話し合ってるんです。「いつまでこんな酷い事が続くんか。ユダヤ人は全滅じゃないか！」

14 すると彼は答えて言った。「二千三百の夕と朝が過ぎるまで。そのとき聖所の正しさが確認される。」

「二千三百の夕と朝が過ぎると、この迫害はピタッと止まる」と言うんですね。

二千三百の夕と朝とは何かを理解するために、ここで歴史を振り返ります。

BC168年、エルサレム神殿にゼウスの偶像が安置されました。

それを見て怒ったのがユダヤ人祭司のマッタテヤ。

BC167年、彼は「多勢に無勢であっても、こんな事はユダヤ民族として許さない！これに憤る者は我に続け！」と反乱を起こします。

彼には5人の勇敢な息子がいて、その3番目がユダ。ニックネームはマカバイオス。このユダ／マカバイオスが軍事的指導者となって、セレウコス朝シリアに対して大戦争を行う。そして、勝ったんです。なので、この戦争をマカバイ戦争と言い、それについて書いた歴史書が『マカバイ記』。

今回、読みましたよ。ほんまに。ちっちゃい字のやつ。

最初は、反乱しても反乱しても勝てない。安息日を守るから。

ユダヤ人は土曜日には一切仕事しない。扉を閉めるという仕事もしない。

だから、ユダヤ人が反乱を起こした時は、土曜日まで待たらいいんですよ。

土曜日の安息日に軍隊が突撃すれば、抵抗するという仕事ができないので皆殺し。

勝てるわけがない。しかし、「神のことばは絶対である。安息日には一切仕事をしはならない！」

それに対して、初めて「違う」と言ったのがマッタテヤなんです。

「考えてみよ。これでは全滅だ。」考えなくても全滅するやん。

「戦争中は抵抗していいんだ。でないと、戦争が終わった時に安息日が守れないじゃないか。」「そうだ！」そこまで行かんと気いつけへんか？というくらい、神のことばを徹底的に守るユダヤ人たち。

3男のユダ／マカバイオスの大活躍で、遂に神殿からギリシア偶像を一掃するんですね。ゼウスの偶像が入れられたのがBC168年12月25日ですよ。

偶像が全部取り除かれて、神殿の清めが行われたのがBC165年12月25日。

ちょうど3年。BC165年のこの段階で、聖所が踏み荒らされることが終わった。

先ほどの預言は二千三百の夕と朝が過ぎるまで。2300日は6年4か月です。

BC165年12月25日から6年4か月さかのぼるとBC171年9月5日です。

この時いったい何があったのか！記録がないんですね。だから分からないんですよ。

でも、1つははっきりしているのは、BC171年に、アンティオコス・エピファネスがエルサレム問題に干渉し始めたということ。

きっとBC171年9月5日に何かあったんでしょう。でも、今のところ発見されている記録文書からは、読み取れるものはないということです。

これを勝手に2300年と解釈しているのが、セブンスデー・アドベンチストというグループです。セブンスデー・アドベンチストは2300年だと。

いや、夕と朝って書いてあるやん。なんで「年」て言うん。

この時から2300年後は1880何年だったか正確なことは忘れましたが、その時にキリストの再臨があると言ったんです。何もなかった。

なので、天で再臨があると言ったんです。天で再臨があるって…間違いやん。

聖書解釈が間違っているんです。聖書は書いてあるとおりに解釈しないとダメです。

聖書解釈が間違っているのに、なぜ今もそれにしがみついているのか。

セブンスデー・アドベンチストを始めたのは、エレン・ホワイトという女性の聖書研

究者です。セブンスデーは彼女を女預言者として、絶対に間違いを言わない人と規定しているので、明らかに間違っても撤回できない。だからヘンな解釈になる。

世の中には、キリスト教を名乗るヘンなものがいっぱい出て来ます。キリスト教を名乗るからといって、全部信用したら駄目ですよ。統一教会、そこから分かれた摂理、モルモン教、エホバの証人とか。

価値ある本物には偽物が出て来るんです。しかし、偽物には偽物は出て来ません。ゴールドにはイミテーションゴールドが出て来るけど、イミテーションゴールドのイミテーションゴールドは出て来ない。100ドル札には偽札が出て来るけど、偽ドルの偽ドルをわざわざ作る人はいない。本物だけが真似されるんですね。

BC165年12月25日、ユダヤの神殿は全部清められました。清められたというのはどういうことか。神殿の地面は全部敷石です。マカバイたちは。神殿が汚されたというので、この敷石を全部めくってさらぴんの石に入れ替え、祭壇の盛り土も根こそぎきれいに削り取って更地にし、再度新品に替えたんです。清めた。

清めた時は戦争中なので、BC165年は仮庵の祭りを祝うことができませんでした。仮庵の祭りは8日間あるでしょ。だから、神殿を清めた日に、仮庵の祭りのやり直しをするんです。それがハヌカの祭り。

ハヌカの祭りは、なぜ8日間続くのか。仮庵の祭りのやり直しの部分があるんです。もちろん、仮庵の祭りは翌年やるんですよ。だけど、これは記念すべき年だということだね。この戦争はゲリラ戦でした。野戦で野を駆け巡っていたことを思い出すために、この祭りは葉っぱを振りながらやると言われてるんですね。このことは成就しました。問題は、まだ実現していないこれからのことです。

16 私は、ウライ川の中ほどから「ガブリエル（イスラエルに様々な啓示を与える御使い）よ、この人にその幻を理解させよ」と呼びかけている人の声を聞いた。

17 彼は私が立っているところに来た。彼が来たとき、私はおびえて、ひれ伏した。すると彼は私に言った。「悟れ、人の子よ。その幻は終わりの時のことである。」

聖なる御使いガブリエルが接近して来た時、ダニエルは怯え、ひれ伏すしかなかったんですね。その幻は終わりの時のことである。さあ出て来ました。聖書で終わりの時は、人類歴史の最終段階である艱難時代のことです。

19 こう言った。「見よ。私は、終わりの憤りの時に起こることをあなたに知らせる。それは、終わりの定めの際に関することだ。」

終わりの憤りの時は、最後の7年間の神の怒りの時。神が激怒する期間。終わりの定めの際。それは定め。必ず行われる。必ずこの時がやって来る。新約時代の私たちはこれを黙示録で、7年間続く艱難時代だと言うんですね。

はじめの3年半で世界人口の半分が死に、後半3年半はもっと恐ろしい時代です。後半3年半がもっと恐ろしい時代になるのは、アンティオコス・エピファネスを無限大に強化した人物／反キリストが、全世界の上に君臨するからです。

これから言うのは既に成就したことではなく、これから実現することですが、ダニエルの立場からすると、両方とも未来のことですよね。

アンティオコス・エピファネスは380年後のこと。世の終わりの時のこと・世の終わりの憤りの時のこと・終わりの定めの時のごとは、はるかに遠い未来のこと。アンティオコス・エピファネスに関して、私たちは細かな部分に至るまで全部実現したのを見届けました。しかし、これから実現する艱難時代のことは、旧約聖書のここに紹介されるんですね。

23 彼らの治世の終わりに、その背く者たちが行き着くところに至ったとき、横柄で策にたけた一人の王が立つ。

治世という言葉は単数形なんです。本当は彼らの国々となるべきなのに、ある特定の時代の最終段階。聖書には**異邦人の時代**というのがあります。

異邦人の時代とは、バビロンがエルサレム神殿を破壊してから艱難時代の最後までのご時代。ここは異邦人の時代のごことです。彼らは異邦人のことごです。

異邦人のそれぞれの時代のごことではなく、**彼らの治世**（単数形）の終わりに、最終段階において何が起るのか。

まずバビロン、次にペルシア、次にギリシア、そしてローマ。ローマの最終発展形が反キリスト帝国。この1節から5つくらいの特徴を見ていきます。

①**横柄**。艱難時代に登場し、世界に君臨する独裁者／反キリストの特徴は**横柄**。横柄いうたら何を思いますか。日本語で“横”が付く字、ロクなのない。横柄・横着・横領・横恋慕・横流し・横目使い。“横”でいいのは横綱だけ。**横柄**って上から目線の感じごですが、ヘブライ語では**横柄**とは書いてないごです。

ダニエル書は7章まではアラム語ごですが、8章からはヘブライ語ごです。

横柄いうのはアズパニーム。パニームは“顔”の複数形。様々な顔。アズは“頑丈・丈夫・タフネス”。“頑丈な顔”って、どんなんやねんと。日本語で“面の皮厚い”いう言葉ごがありますね。厚顔無恥。これは、いくつもの顔を完璧に使い分ける人物のごことではないかなと思ごいます。

正式な精神医学用語ではないけど、“サイコパス”いう言葉ごがありますね。

僕は反キリストの人格を考ごえる時、いつもサイコパスを思ごいます。

昔、ロバート・ヘアが『診断名サイコパス』いう本を書きました。

大ベストセラーで、私にはすごく参考になりました。すごく参考になった本は大抵お勧めしますが、この本はお勧めしません。読んだら、もう気が滅入るごですよ。

一見、人の手本になるような行動を取っている。でもその内面は、人を自由自在に

操作するために、ありとあらゆる策略を巡らしている。
しかも、自分以外のことに関する共感能力がないので、傷つくことが全くない。
「痛い！痛い！」と悲鳴を上げてても、「何か鳴ってる」みたいにしか思わない。
だけど、表面上の愛の言葉で、人から蜜を吸うだけ吸い取って行く。
そのような特殊な犯人が起こした、世界的な気色悪い猟奇事件を述べた本なんです。
2つくらい事件を読んだ段階で「う～、怖い…」。でも、怖いのもつてやめられない。
しばらくは頭から取れへんかった。最近また反キリストのことを思う時に読んで。
おそらく、反キリストは人間の精神構造をしてないんですね。

②策にたけた。紙の聖書には欄外に直訳が書いてあって、意識より直訳の方がはるかに優れています。直訳は謎を理解する。謎を理解する人。

聖書解説をする時、自分だけで読んでても全然分かりません。だから、優れた聖書研究者の注解書にも目を通します。
今日の解説の7割くらいは、フルクテンバウムという人の英語版ダニエル書です。
私の研究成果でも何でもなく受け売りです。でも、フルクテンバウムにも、ほかの人の受け売りがあると思います。
こうして、みんなで受け売りをやって、でも、それぞれが100%受け売りではない。
やっぱりクリスチャンは、聖霊によって意味の解き明かしがあるんですね。
だれでも聖霊によらなければ、イエスを主と告白することはできない。
みことばを知ることはできません。そうやって分かち合っているんですね。

反キリストという男は、闇の謎を解き明かせる人です。どういうことか。
時々、当たる占い師おる。ああも言える、こうも解釈できるというのではなく、ズバリ「こうだ！」霊能者というか、妙に信憑性のある霊媒師みたいな人いますよ。

以前この集會に、ある機関投資家が来られてました。いつも大きな荷物持って。
ある時「その荷物、何なんですか。」「高原さんだけにお見せします。」
開けたら、人間の顔が出て来るんですよ。サイコパス？いやいや。人相を鑑定する。
顔に色んな印が付いてて、「高原さん、やりましょか？」そんなんいいわ。

彼が動かしている投資額、ビックリするお金ですよ。
何人かの有名な占い師のところに通っているんですが、その話を聞きながら、その1つにこの集會所あるん？と思ったんですよ。「ここに通ってても、どの株を売ったらええかとか、どのタイミングで買ったらええかとか、分からへんと思いますよ。」「そうじゃなくて、ここは人生の目的を知るためです！」とか言うて。
「それなら、そんな占い師のところに行くの、やめたらどうなんですか」と言った時…、今、名前言いそうになった。

超大手企業の自動車会社。絶对外せない新しいプロジェクトがある時、A課長とB課長のどちらを選ぶか。2人とも同じ学歴、同じ実績、同じ魅力、同じ部下思い、同じ能力。どうしてもどうにも選べない場合、占い師に聞きに行つてると。
どちらを選んでもいい。それなら自分で選べやと思うんですけど。

でも絶対に外せない時、その企業は占い師に聞きに行っているのです。占い師からの情報で、次のプロジェクトは何をするかとか、色んなことが読めると言うんです。占い師が言っていることを信用するというよりも、どこの企業の誰が相談に来たかが分かるだけでも、株式投資上はプラスになると。

「それ、せこくないですか。」「それをせこいと言うなら、高原さんは投資に向いてないわ。」僕は向いてないと思いますよ。

株じゃなくて、自分の人生に投資するのが快樂なんです。

それを聞きながら、そんなに人生経験や経営の修羅場をくぐって来た人たちや各企業が、なんで占い師をお抱えで持っているのか。これは政治家も同じです。

時々、神がかったように見える判断をしてくれることがあるので、どうにも分からない時には占い師に持って行く。

なぜ神がかった判断をするのか。これは神がかりじゃなくて、悪魔がかりなんです。反キリストは闇の謎を解き明かす、闇の謎を理解する人物です。

24 彼の力（軍事力）は強くなるが、自分の力によるのではない。彼は、驚くべき破壊を行って成功し、有力者たちと聖なる民を滅ぼす。

艱難時代に3段階の大戦争があります。最初の3年半とちょうど真ん中、そして、最後の3年半にハルマゲドン戦争。反キリストは最初と真ん中の戦争に圧勝し、3回目はキリスト軍と戦おうとするんですね。

今世界は208か国。国連加盟は193ですよ。聖書預言によると、208が1つにまとまって世界統一政府ができます。

しかし統一政府は失敗して、世界は10か国に分かれる。後に7か国になりますが、この10か国に分かれている時代に、艱難時代に入ります。

10か国はそれぞれ軍隊を持っていますが、10人の指導者とは別に反キリストが出て来る。彼には軍隊がないのに、10の軍隊を自由自在に動かして、非常に大きな軍事力を使うことができるようになるんです。

なぜかという、彼の力は強くなるが、自分の力によるのではない。

悪魔の力です。人間離れ、いや人間の姿をした人間ではないもの。

大きな力／悪魔的な力で、悪魔の意のままに、悪魔の思うところを完全に行う人物が反キリストです。

彼／反キリストは、驚くべき破壊を行って成功し、有力者たちと聖なる民を滅ぼす。ここの有力者はユダヤ民族の有力者。聖なる民はユダヤ人のことです。

聖なるというのは罪がないとか汚（けが）れがないとかではなく、“取り分けられた”というのが聖書的な意味。異邦人から取り分けられた神の占有民族／ユダヤ民族。

反キリストはユダヤ人と有力者たちを滅ぼす。なぜ滅ぼすのか。

自分の力によるのではない、悪魔の力で行動する反キリストは、悪魔が一番したいことをします。それは、ユダヤ民族を全滅させること。

反ユダヤ主義の背後には、悪魔の考えがあります。
今ハマスのテロの報道を聞いていると、ユダヤ人／イスラエルは血も涙もない極悪の民で、人類の恥でしかないみたいな報道が多いじゃないですか。
もうフェイクだらけ。しかも、フェイクが明らかになった時、それを流した本人たちはフェイクだったと言わず、次のフェイクをしらっと言うのよ。
だからいつまで経っても、『ごうちゃんねる』は後を追いかけていけない。
もっと、ほかのことを言いたいんですよ。『あっさり黙示録』が中断されて、既に4か月も経ってる。
反ユダヤ主義がますます酷くなっていくけど、それが実行されるのが艱難時代です。

25 狡猾さによってその手で欺きを成し遂げ、心は高ぶり、平気で多くの人を滅ぼし、君の君（王の王、主の主、イエス・キリスト）に向かって立ち上がる。しかし、人の手によらずに彼は砕かれる。

地上再臨するイエス・キリストに向かって立ち上がり、戦う戦争がハルマゲドン戦争です。しかし、人の手によらずに彼は砕かれる。その時、彼らはなす術もなく、イエスの息によって倒されます。

アンティオコス・エピファネスは、人の手によって砕かれました。
彼は戦車から落ちて体調を崩し、目が腐っていく病気になって死ぬんですね。
アンティオコス・エピファネスについては、11章により詳しく出て来ます。
人の手によらずに彼は砕かれるので、この彼はアンティオコス・エピファネスではありません。
人はだれも反キリストに抵抗できません。しかし、地上再臨のイエスの威光によって、反キリストは完全に滅ぼされます。永遠の地獄に放り込まれるんですね。

最初に紹介したジョエル・ローゼンバーグ。本のタイトルは『第三の標的』。
主人公はニューヨークタイムズの記者。この記者が、実在するヨルダン国王に取材に行きます。ヨルダンアラブの国ですが、イスラエルの安全保障上、なくてはならない国なんです。

「イスラム国が化学兵器を使ってヨルダン国王を抹殺し、多数派になっているパレスチナ人を動員して、中東に大きな争乱を起こすとしたらどうか」という設定。

実はヨルダン国王の側近がこの本を読んで、「王よ、あなたのことがそのまま出て来ます。私は2日間で読みました。非常に参考になりますから、ぜひ読むべきです。」今のヨルダン国王がこれを読んだんですよ。どうしたと思いますか。
著者を宮殿に呼んで会談したんです。「ここまで分かってたか…」
さっきアマゾンで見たら1円。今はクリックしないですね。

なぜローゼンバーグの本がそんなに売れるのか。
ストーリーが当たらずとも遠からずで次々展開していくので、その先を知りたい人は、彼の小説を読まずにはいられないんです。とても参考になるから。
彼が世の中の先のことを書けるのは、インサイダー情報を聞いているのと、聖書預

言を知っているからです。

聖書預言は当たらずとも遠からずのことが書いてあるのではなく、書かれているとおりのことがそのまま全部実現する。聖書預言は未来のことではなく、神のことばを預かったことばなんですね。

では、なぜ預言が与えられているのでしょうか。

信じている人には確信を与えるため。まだ信じていない人には警告を与えるためです。準備をしてくださいと。ここに、絶対的に信頼して間違いないものがあります。

私は聖書預言がなかったら信じてないと思います。

私は聖書預言、特にユダヤ民族の預言を聞いた時、自分なりに調べました。

その結果分かったのは、そのとおりだったということ。だから、私にとっては神を信じるというよりも、「認めざるを得ないので認めます」というのが近かったです。聖書預言は、信じるに足る根拠としてあまりにもパーフェクトだった。

これが私の信仰の原点になっています。なのでそれ以来、私のライフワークです。

次回の 9 章はもっとスゴイのよ。ぜひ、またいらしてください。

最後までありがとうございました。

☆*: ..o ..o..*☆ ☆*: ..o ..o..*☆ ☆*: ..o ..o..*☆ ☆*: ..o ..o..*☆ ☆*: ..o ..o..*☆ ☆*: ..o ..o..*☆

引用文献；新日本聖書刊行会『聖書 新改訳 2017』いのちのことば社,2017